

第1学年国語科学習指導案

日 時：令和4年11月24日 公開授業1

対象学級：1年1組 31名

指導者：相原友子

1 単元名

むかしばなしが いっぱい

教材名 「おかゆのおなべ」「本はともだち」（光村図書 1年下）

2 内容のまとめ

第1学年及び第2学年

- 1 [知識及び技能] (3) ア
- 2 [思考力, 判断力, 表現力等] C 読むこと (1) イ

3 単元の目標

- (1) 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。
[知識・技能] (3) ア
- (2) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。
[思考・判断・表現] C (1) イ
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
[学びに向かう力, 人間性等]

4 単元について

(1) 児童について

ア 児童はこれまでに、「おはなし たのしいな」「としょかんへいこう」「としょかんとなかよし」で、昔話に限らず読み聞かせを聞いたり、本を読んで楽しんだりする経験をしてきている。物語の楽しみ方については、「おむすびころりん」や「おおきなかぶ」の学習を通して、調子のよいリズムや繰り返しのおもしろさ、音読の工夫、役割演技、簡単な劇遊びの楽しさについても体験してきた。また、「やくそく」や「くじらぐも」の学習では、場面の様子や登場人物の気持ちについて、想像を広げて読む力を高めてきた。

イ 日常生活では、学級文庫や図書館を積極的に活用しながら、本を手にとって楽しんでいる児童が多い。朝読書にも心を落ち着かせ、すっと取り組める児童が多い。ジャンルは、年齢に合った簡単な絵本や物語、図鑑等を好む傾向が強い。

ウ 今回 100 冊を超える世界の昔話を取り上げ、身近に置き、知っている昔話について友達と話したり、読みたい話や読んでもらいたい話を考えたり、「おはなしカード」にまとめたり、登場人物をロイロノートに取り込んで発表したりしながら昔話を楽しむ体験は、児童にとって意義深いものであると考える。

(2) 教材について

ア 本教材は、読書単元「本は友達」系列の最初に位置するものである。図書館を利用したり、他の児童の物語体験に出会ったりすることによって、自分の読書生活に潤いをもたらす本の世界を広げるとともに、本を介して他者とつながっていくおもしろさにも気付かせることができる教材である。

イ 本単元は、大きく分けると、3つのまとめりで構成されている。1つ目は、外国の昔話の図書館

での並び方、学習の見通しをもつ部分である。2つ目は、「おかゆのおなべ」を読み、内容の大体を読み取り、好きな所をカードにまとめ、友達に感想を伝えることによって、児童の読書意欲が継続したり高まったり、違う見方ができたりするようになっている。3つ目は、読んだ本の中から、友達に知らせたい1冊を選び、友達に紹介したいことをカードに書き、友達と交流し合う学習となっている。児童にとって読書が身近なものになり、自ら本にかかわり、昔話の世界を楽しみながら読書に親しむ態度を育てていくのに適した教材である。

ウ 今回たくさんのお話とその好きな場面に触れることは、古くからの人々のものの見方や考え方を無意識の中で聞き、引き継ぐことにもつながる。また、この教材をきっかけに、読み聞かせ、紙芝居、ストーリーテリング、物語サイコロ、ロイロノートでの交流など、これまでに体験した物語の楽しみ方も想起し、教材を楽しんでいきたい。

(3) 指導について

ア 本單元における言語活動の特徴等

本單元では「がいこくのむかしばなし」をキーワードとして、「出会うー感じる（評価する）ー共有する」という読書主体育成の基本的プロセスの指導を重点にしている。集団で読み合うことで物語共同体が醸成され、主体的かつ協同的にも読書に親しみ単元の目標達成ができる。

他者に物語のおもしろさを伝えるときには、登場人物の言動や出来事など、自分が物語のどの部分・要素に反応しているかを意識させて取り組ませる。「おかゆのおなべ」の詳細読みは行わず、児童がおもしろいと思ったところを自由に探させ記述させたい。

また、おもしろさについて発言したり記入したりするときは、ICTを活用し、該当箇所を踏まえ、共有し合うことを意識して指導していきたい。

読書体験を積み重ねるため、「おはなしカード」の紙を用意し、活用していく。児童に今後も継続的に読書に取り組む習慣を身に付けさせたい。

イ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫等

「主体的な学び」を実現するために、単元のゴールを学年目標と絡めて、「むかしばなしが いっぱい」と設定し、むかしばなしをいっぱい読んで友達に好きなところを伝えて楽しむという目的意識をもって本を読むことができるようにする。

「対話的な学び」を実現するために、自分が選んだ本、言葉、挿絵などを、ICTを活用しながら友達と共有する場面を設定する。「おかゆのおなべ」では、どの言葉や挿絵に魅力を感じたか、電子黒板を活用し想起しながら交流することで、友達の考えと比べたり、同じ場面でも感じ方が人によって異なるなど多角的に物を見る力を高めたり、新たな発見や気づきなどを促し、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。それは、本を読んで楽しんでいく上で大切なことなので、友達と共有しながら、自分の考えを伝え合う場面を大切にしていきたい。

「深い学び」を実現するために、交流によって生まれた共通点や相違点を明らかにし、新たな発見や気づき、おもしろさなどを価値付けていく。また、児童が紹介した本のブックリストを作成したり、「おはなしカード」を多く用意したりして、この単元以降も、進んで読書をしようとする態度につなげていく。

ウ 研究の手立てとのかかわり

電子黒板にデジタル教科書を投影したり、タブレットに資料を配付したりすることで、視覚化・焦点化を図る。またロイロノートを活用し、自分の選んだ本の表紙、好きな場面や言葉、挿絵などを記録したり、「おはなしカード」をカメラで写して送り、見合ったり楽しんだり、感想を伝え合ったりして、活動や思考した内容が残るようにする。それを仲間と共有したり、説明したり、比較検討したりすることで、単元の目標を達成するための手立てとしたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。 (3) ア	① 「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 C (1) イ	① 進んで昔話に親しみ、学習したことを生かしながら、自分の好きなところを紹介しようとしている。

6 指導と評価の計画（8時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次			
1	<ul style="list-style-type: none"> 外国の昔話の選び方や図書館での外国の昔話の並び方を確認する。 教師の選んだ昔話を聞き、昔話の世界に浸る。 教師の書いた「おはなしカード」を示し、学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。 自分の読みたい昔話を手に取って読んでみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館で授業をし、並び方を実際に示す。 カードを書く過程を示し、見通しをもたせる。 ICT (視覚化・共有化) 観点の例を示す。 ICT (焦点化・共有化) 	
第二次			
2 ・ 3 ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> 「おかゆのおなべ」を読み、気に入ったところを見つける。 物語に出てきた登場人物について確認する。 会話文「 」を工夫して読む。 「 」と『 』の使い方の確認をする。 主人公がしたこと、言ったことに着目し、物語の大体を読み、気に入ったところを「おはなしカード」に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> カードに書く観点を意識し付箋紙やサイドライン等を活用しながら物語を読ませる。 全文を掲示し、クラス全体で気に入ったところを確認しやすくする。 ICT (視覚化・焦点化・共有化) 自分の書いた「おはなしカード」を見ながら発表させ、同じ場面でも感じ方が違うことに触れさせる。 ロイロノートに感想を書き、友達に送って、カードを見せ合う楽しさに気付かせる。 ICT (視覚化・焦点化・共有化) 	<p>【思・判・表①】 〔発言・記述・行動観察〕 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。</p>
第三次			

5 6 7 本時 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読んだ昔話の中から、友達に知らせたい1冊を選ぶ。 ・ お話カードの書き方を確かめ、選んだ本を再読し、登場人物と心に残ったところを「おはなしカード」に書く。 ・ 友達の「おはなしカード」の発表を聞く。感想をロイロノートで送ったりして、友達と楽しさを共有し合う。 ・ 本単元を振り返り、友達の「おはなしカード」を見て聞いて、読んでみたくなった昔話を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次で提示した教師のモデルをもとに、友達に紹介するという意識させる。 ・ 書く内容を示すことで、再読する際の観点に沿って書きまとめることができるようにする。 ・ 交流活動を通して、児童が読書の幅を広げたり、新たな見方に気付いたりした高まりに触れ、認め合うようにする。 ICT (視覚化・共有化) ・ 振り返りは、本を読む楽しさや人によって見方考え方が違うことを意識させ、本単元のねらいを達成できるようにする。 ICT (共有化) 	<p>【主体的①】 〔記述・行動観察・ロイロノート〕 進んで昔話に親しみ、学習したことを生かしながら、自分の好きなどを紹介しようとしている。</p> <p>【知・技①】 〔発言・記述・行動観察〕 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。</p>
-----------------------------	---	--	--

7 本時の指導（7時間目／全8時間）

（1）目標

自分の選んだ昔話について、場面の様子や登場人物の行動など、気に入ったところを紹介し合うことができる。

（2）展開

段階	学習活動	指導上の留意点（◇評価）
導入	1 前時の学習想起 2 本時の課題把握	・ 前時までのことと、本時の学習の流れを確認し、見通しをもって活動できるようにする。
3分	ともだちの「おはなしカード」で、つぎによみたい むかしばなしを見つけよう。	
展開 37分	3 課題解決 ・ 「おはなしカード」をもとに発表する。 ICT (視覚化・共有化)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点を確認する。 ・ 自分が選んで読んだ昔話を「おはなしカード」を用いながら紹介するときは、ICT を使い、分かりやすく、楽しく聞くことができるようにする。 ・ 聞くだけでなく視覚的に捉えることで、児童のイメージを広げ、共通点や相違点に着目させ、新たな発見や気づき、読んでみたいなどという気持ち等が生まれるようにする。 ・ 簡単な感想を挙手で聞く。

展開	<ul style="list-style-type: none"> 感想をもつ。 	
	<p>ぼくは、「ジャックとまめの木」のむかしばなしが おもしろかったです。大男が出てきたとき、ドキドキしました。ぼくは、この本を读っていたけど、またよみたくなりました。</p> <p>わたしは、「ブレーメンのおんがくたい」が、わくわくしました。どうぶつたちが いいかんがえを 出していて びっくりしたからです。この本を はじめて读って うれしかったです。</p>	
37分	<ul style="list-style-type: none"> 感想を発表し共有する。 <p>ICT (焦点化・共有化)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 同じ本でも、友達の好きな所と自分の好きな所が異なったり同じだったり、自分の気付かなかったところを発見したりすることは、これからの読書生活を広げたり豊かにしたりすることにつながることを実感させる。 児童の頑張りを認め、自信を付けさせるような感想を取り上げる。 感想を早く書きまとめた児童は、読みたい本を手にとって、読書を楽しめるようにする。次時はもっと楽しむことを確認する。 <p>◇【主体的①】〔記述・行動観察〕 進んで昔話に親しみ、学習したことを生かしながら、自分の好きなところを紹介しようとしている。</p>
終末	<p>4 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返る。 	
5分	<p>〇〇のむかしばなしは、读っていたけど、はっぴょうをきいて、またよみたくなりました。すきなところが いろいろあって、たのしかったです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次時の学習内容を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 今度読んでみたい昔話、あるいはもう一度読みたい昔話が見つかったかなどを発表し、読書への関心を高め、次の活動の意欲へつなげるようにする。

(3) 板書及び電子黒板等の計画

ア 板書

がいこくの むかしばなしを よもう
むかしばなしが いっぱい

ともだちの「おはなしカード」で、
 つぎによみたい むかしばなしを
 見つけよう。

へがくしゅう①
 おはなしカードを はっぴようする。

① だいめい
 ② 出てくる人・どうぶつ
 ③ すきなところ
 おもしろかったところ

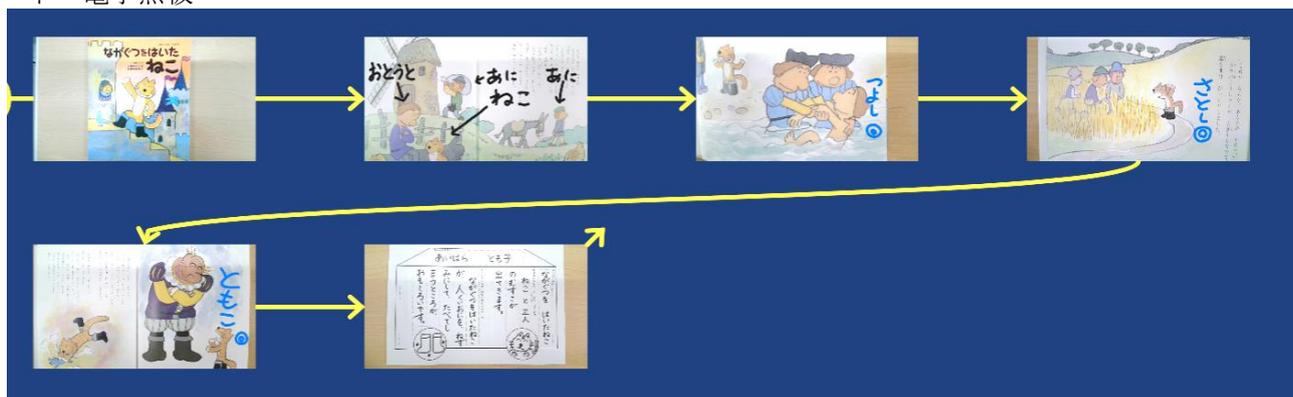
へがくしゅう②
 かんそうを もつ。 はなす。

じぶんと おなじだな
 ここが ちがうな
 わたしは ここがすき
 ぼくは こうおもったよ

むかしばなしは いろいろある。
 よみたい本が 見つかった。

へふりかえり
 ともだちの はっぴようをきいて
 ・ はじめてしたこと
 ・ おもしろそうだとおもったこと
 ・ すごいなとおもったこと

イ 電子黒板



児童の読んだ本の表紙の写真 ⇒ 出てくる人 ⇒ すきな場面やおもしろかったところ
 ⇒ さいごに「おはなしカード」を映す

※ 本物の絵本や「おはなしカード」を教室の周りに 用意しておく。